

ニュースレター

★2005年度定例総会特集号★

5月21日(土)22日(日)に奥伊勢フォレストピア宮川山荘(多気郡宮川村)にて定例総会が開催されました。総会に先立ち、昨年の宮川村の水害死者に黙祷を捧げました。



宮本忠会長挨拶



昨年は宮川村が大きな台風災害を受けました。宮川村は、我が協会の発起人でもあり、また最初からの役員でもあり、いつもこの協会の発展のために強力な応援をいただいております。にもかかわらず、どのように宮川村にお見舞いをすればいいか、何もできぬまま過ごしておりました。当協会の増田さん(事業担当)から宮川村フォレストピアの客が急減して大変なので、総会を宮川村で開いて宿泊したらどうかと提案があり、今日の運びとなったわけです。

さて、協会ができて6年目になります。他方、5年前から日本・オーストラリア協会連合をつくらうという話が具体的に進行し今年の5月に連合が発足しました。我が協会も日本レベルで、もっと大きなスケールで発展していこうという段階になってきております。協会の新しい事業を二つ報告します。一つはタスマニア大学タイコクラブが三重に来たということ。もう一つは今年6月に三重県の視覚障害者の協会(JRPS)が当協会のバックアップでNZに旅行することです。たまたま私がJRPSの講演を頼まれたときに、当協会は日本からのホテルの予約もせず、3週間、レンタカーでオーストラリアやNZを旅して、勉強したり、親善旅行をしている、けっこう安く行ける、という話をして、目が悪いからといって、家にひきこんでいないで、外国にでも行ったらどうですか、と最後を結びました。それなら連れて行ってほしい、ということになり、事業担当の増田さんに相談したら、うちの設立の目的に合致しているということで役員会に諮り異議なく認められ、この6月に実施することになりました。増田、立石、宮本夫妻で行ってきます。オークランドとロトルアで向こうの視覚障害者の団体とミーティングやパーティを行うなど、準備は完了しております。これをこの前の名古屋の連合発足大会のときに、三重の協会の活動紹介で少し話したら、あとから、岩手県の会長さんが、自分は名鉄観光の所長をやっているのだけれど、こんな話は聞いたことがない、ぜひ成功させてほしいと言われました。

次にタイコクラブの件ですが、皆様から多額の寄付をいただいて、一昨年太鼓を持ってタスマニアに行きました。その結果、タスマニアではモテモテで、タイコクラブは毎週土日、忙しく、あちこち演奏旅行をやっているのですが、日本、三重に来て演奏したいということになって、三重大学、いなべ市が受け入れてくれました。当日は三重県内外から200名という人が聞きに来てくれ、パーティも三重大学が盛大に開いてくれました。いなべでは国際協会と3つの太鼓クラブが合同演奏会と昼食会を開いてくれました。三重大学には飯高の太鼓クラブが来てくれました。我々のささやかな行いが日本全国に広がりました。あとでスティーブン君が話してくれると思いますが、タスマニア大学タイコクラブは、三重だけではなくて、姉妹都市の池田市、焼津市、そして、長野県でのワークショップにも参加して、大変喜んで感激して帰っていきました。

この二つが、昨年の総会の後、皆さんに相談せずに、突然入ってきたことです。これもひとえに皆様方の御協力、サポートと、さまざまな積極的な参加のおかげと思っております。今後ともよろしくお祈りいたします。



役員改選について 任期2年

副会長の伊藤さんおよび会報担当の坂野さんが退任されました。ご苦労に感謝いたします。

2005年度役員およびオフィス担当者 (注) はグループリーダー

【総括オフィスグループ】

- 会長 宮本忠 (留任)
- 秘書 宮本由紀子 (留任)
- 副会長 井ノ口輔ひろ (留任)
- 副会長 小山良一 (新任; 経済担当から移動)
- 会計 井ノ口節子 (留任)
- 監事 若林祥男 (留任)

【教育広報オフィスグループ】

- 教育 畠山義啓 (留任)
- 会報編集印刷 梶美保 (留任)
- 会報校正 藤山真澄 (新任)
- 会報管理保管 米倉芳周 (留任)

【事業オフィスグループ】

- ショート・ロングステイ 増田陽一 (留任)
- 生活 大野福代 (留任)
- 経済 北出勲 (新任)
- 自然 宮川村 (留任)
- スポーツ 松阪市 (新任; 飯高町との合併による)

[参考]特別顧問ジェトロ三重

2004年度決算および2005年度予算について

2004年度会計報告

(自2004年4月1日 ~ 至2005年3月31日)
収入合計 1,142,730円 支出合計 410,495円

収入の部			
項目	細目	金額	備考
会費	個人・家族 法人会費	310,000	45,000円(18) 家族105,000円(20) 法人160,000円(19)
諸収入	雑入	80,507	預金利息 7円 総会負担金70,500円 寄付10,000円
前年度繰越金		752,223	2003年度繰越金
合計		1,142,730	

支出の部			
項目	細目	金額	備考
報償費	講師謝礼	71,000	総会講師補助 10,000円 総会演奏お礼20,000円 オーストラリア領事お礼10,000円 太鼓交流お礼30,000円 伊勢神宮案内お礼1,000円
役員行動費		20,000	4人(会長他)
旅費		48,580	・NZ大使館交流
宿泊費		0	
需用費		161,045	・食料費(総会・例会) 61,010 ・消耗品費1,350円 ・印刷製本費 8,685円 ・乗船代(総会) 90,000円
役務費	通信運搬費	43,860	・郵送料42,430円 ・振込料1,430円
備品購入費		0	
負担金	事業参加負担金	0	
使用料	会場借上料	0	
事業助成費		66,010	・太鼓交流58,010円 ・ロトルア盲人協会へ8,000円
予備費		0	
合計		410,495	

差引残額 1,142,730円 - 410,495円 = 732,235円
732,235円を次年度に繰り越す。
以上の通り、ご報告します。

2005年3月31日 会計 井ノ口節子
2004年度の三重オーストラリア・ニュージーランド協会の会計について、監査を行ったところ、適正であったので報告します。
2005年5月2日 会計監査 若林 祥男

2005年度収支予算

(自2005年4月1日 ~ 至2006年3月31日)

収入の部			
項目	細目	金額	備考
会費	個人・家族 法人会費	310,000	個人(18) 家族(21) 法人(16)
諸収入		7,765	預金利息・雑収入
前年度繰越金		732,235	2004年度繰越金
合計		1,050,000	

支出の部			
項目	細目	金額	備考
報償費	講師謝礼	40,000	各種事業の講師謝礼
役員行動費		20,000	役員活動費 (5,000×4)
旅費		60,000	・講師謝礼を含む ・行事参加旅費
宿泊費		50,000	行事参加に伴う宿泊 ・食料費(講師茶菓子代)
需用費		70,000	・消耗品費 ・印刷製本費
役務費	通信運搬費	80,000	郵送料等(切手・葉書代)
備品購入費		55,000	協会事務用品購入
負担金	事業参加負担金	40,000	中部日豪合同セミナー・日本NZ友好協会合同大会
使用料		40,000	・会場借上料(総会・各種事業)
事業助成費		200,000	各種委員会実施事業に対する一部助成
予備費		395,000	
合計		1,050,000	

第5回豪NZ友好親善の旅について **会報発行時には申し込みが締め切りとなっております。**

今年度の協会の親善・交流の旅は、大陸横断鉄道、インデアンパシフィック号とレンタカーによる、オーストラリアの体感・実感の旅です。11月実施予定。定員14名。申し込み締め切り7月31日。

日豪協会連合会の発足について

5月14日(土)15日(日)に、名古屋協会が幹事役で、連合会発足の全国大会が開かれました。

住所録アンケート結果について

本年4月から、個人情報保護法が施行されました。アンケートの結果、会員から匿名や電話番号の掲載無用などを求め、特にありませんでした。

会報およびホームページについて

投稿原稿に字数・枚数指定を今後行います。編集合理化のため。1項目800字以内。

J R P S 三重支部 ニュージーランド親善旅行の後援について

23名参加。主宰J R P S 三重支部。後援協会。5月12日に説明会。6月6日～11日。協会からは増田、立石、宮本2人が同行。

豪日協会タスマニア全国大会について 8月19日(金)～21日(日)

<http://www.austjapanfed.org.au/conf05/index.htm> を参照。

愛知万博NZナショナルデーについて 6月3日(金)、そしてNZ交響楽団の演奏会が8月22日(月)にあります。万博会場グローバル・コモン6にあるステージでマオリの歌と踊りが毎日11時20分、3時、7時の3回披露。www.expo2005.co.nz を参照。

タスマニア大学タイコクラブ三重訪問演奏会など、無事終了について

第四回豪NZ親善訪問の成功について

A luncheon reception for the Australia at Aichi'lunch

2004年11月5日(金)オーストラリア大使館にて

ギブソン大使離任レセプション 2004年11月11日(木)ニュージーランド大使館にて

浜名湖日豪/NZ協会発足式典について 4月16日(土)浜名湖エヌ・エル・ファームにて

2005年度定例総会関連行事プログラム

以下の行事は、宮川村およびフォレストピア宮川山荘のご後援をいただいています。

四日市の蔵屋さんからワインの提供がありました。

5月21日(土)16時から「ときめきとゆとりを話し合おう会」

<話題提供者>

- ・尾上宮川村村長「宮川村とパラオ共和国/昨年の災害について」
- ・山口ジェトロ三重所長・協会顧問「オーストラリアの豊かさについて」
- ・スティーブン・ウィット(協会員)「タスマニア大学和太鼓行脚」
- ・増田進一(協会員)「ニュージーランドで釣って食べて」
- ・米井誠(オークランド在住)「キングフィッシュとの闘い コロマンデル」NZからの報告(代読:宮本由紀子)

18時 奥伊勢フォレストピアで バーベキューとタスマニアワインの楽しい夕食

夕食の合間にディナースピーチとビデオ

畠山協会理事「メルボルンの楽しいワイナリー」

そしてのんびり温泉・合同宿泊

5月22日(日)9時から、みどり滴る大自然宮川遊覧。弁当付き。

山荘祭りに参加し、台風災害地を歩き、緑滴る五月の奥伊勢を遊覧しました。総会関連行事の一つとして、寺添産業課長の案内で被災地を歩きました。21日の尾上村長の被害状況を、私は、悲痛な思いで拝聴していたのですが、いざ被災現場を歩いてみると、いっそう、問題の深刻さを改めて実感しました。(宮本)



奥伊勢フォレストピア宮川山荘

多気郡宮川村 993 番地 TEL 0120-017137 <http://www.vill.miyagawa.mie.jp/okuisseforestpia/>

「ときめき と ゆとり を話し合おう会」(編集の都合により内容抜粋)

尾上宮川村村長「宮川村とパラオ共和国/昨年の災害について」



パラオ共和国が三重県と提携を結んで以来、宮川村でも、中学生の派遣をしています。(編集部注; 1996年7月25日友好提携に調印。パラオのクニオ・ナカムラ元大統領の実父が伊勢市出身だったので)今年で9年ほどになりますか(注; 1998年8月14日~19日宮川中学校パラオ訪問団)中学生と保護者平均30名(15組)をホームステイさせてもらっています。むこうからこちらへも、3回目か4回目になりますか、今年は5月27日から31日まで来ます。(注; パラオ共和国ハリス小学校宮川村訪問)自然を満喫し、戦争と平和についても考えるようで、非常によかったという感想です。来年1月に大台町と合併しますが、大台町はオーストラリアと交流があるそうです。

昨年の災害についてですが、6名が亡くなられ、1名が未だに行方不明、全壊・半壊家屋・浸水等の大きな被害がありました。9月29日、台風21号による雨は、午前9時から10時の1時間で最大125mm降ったのが、役場から4km離れた所で観測されました。10:10、小滝集落に避難勧告を出しましたが、このとき既にかなり崩落していたと思われます。10:30、全村に避難勧告を出しました。多数の崩落・土石流・地割れが発生しました。考えてもいなかったような雨が、局地的に短時間に降るときは警戒しなければなりません。8月4日にも、飯高町0mm、紀伊長島5mmなのに、宮川村だけ雷雲発生、局地的に襲ってきました。今回の災害では、多くの方々からご支援、激励をいただきました。災害復興支援に使わせていただきます。

山口ジェトロ三重所長・協会顧問「オーストラリアの豊かさについて」



93~96年の3年間、駐在員としてシドニーに住んでいました。「豊かだ」という感じはどこからくるのか。津に住んでいて、実はあまり豊かだとは感じません。オーストラリアは資源が豊か、広い土地、自然が豊か、森林、きれいな海岸線、珊瑚が保存されている、きれいな自然、住宅地もきれい、家並みが揃っていてきれい、屋根の色を統一してある(人工的に造られたから)美しい、住みやすさを感じる…。日常生活で感じるのは、広さ、自然の豊かさ、住宅、治安でしょうか。東京では、広い土地は無理、きれいな町並みは、ごちゃごちゃしていて真似も競争にもならない。

三重でも、津でも、広い土地、自然はある。なのに今ひとつ、豊かさを感じない。街が住民本位に作られているか否かではないか。オーストラリアは、きれいな歩道、緑の並木道がある。それに対し、23号線は殺風景、木の高さがバラバラ、段差のひどい歩道、看板乱立、あまり豊かではない。貧しさを感じる。サモアでも、豊かさは感じる。文明的なものがあるわけではないが、人が住むのにいい街が出来ている。アメリカでは、住宅地が非常に豊か。国道沿いは、日本と似て、大きな看板、量販店があるが。ヨーロッパは、歴史があり、人本位に街を保存している。日本も景観規制し、看板を規制し、歩道を整備し、並木道を造る。観光地だからではなく、住んでいる人が豊かさを感じるか。オーストラリアでは、住宅地では、わざわざ道路に段差が作ってあって、車が減速しないとイケないようになっている。郊外の公園には柵があり、子どもが飛び出せないようになっている。事故防止のため。住民本位の姿勢がオーストラリアのあちこちで見られる。日本も努力次第でできるのではないか。

スティーン・ウィット（協会員）「タスマニア大学和太鼓行脚」

今年の2月にタスマニアからタイコクラブのメンバー6人が、和太鼓のトレーニングと交流のために日本にやってきました。姉妹都市である大阪の池田市、静岡の焼津市を訪問してから、三重に入りました。

三重訪問について、メンバーのララさんから感想の言葉を預かっています。「三重の人々に温かく歓迎されると、すぐに気分が落ち着きました。神谷さんの家でも出してもらった寿司、果物や酒などのごちそうをいただきながら、楽しい時間を過ごしました。茶道を体験できたことも感激して、いい思い出ができました。翌日の伊勢神宮は有名なだけあって、本当に美しく、神秘的な場所と感じられました。そして三重大学での時間もとても楽しかったです。清流太鼓と同じ舞台で演奏できて光栄でした。異なったリズムや演奏スタイルが見られて、勉強になりました。見たことのない種類のバチを使っているところが特に印象に残って、それと同じバチのお土産をいただいたときは、とても嬉しかったです。演奏後の交流会も、出席者の皆さん、大学生ともお話が出来て、それも楽しかったです。私達を温かく歓迎してくれた三重の皆さんに感謝しています。さまざまな日本の素晴らしい文化を見せていただけて本当にありがとうございました。」



2月6日に三重県を出て、長野県での合宿に向かいました。バスの車窓から見た風景は非常に美しかったです。2月ですので、山に入っていくと、かなり寒くなってきました。しかし合宿の間は雪は一回も降らず、生活の面ではよかったです。雪が見たかったので少し残念という声もありました。

長野の旅館には、3尺くらいの大きな太鼓が檯台に載っていました。旅館の御主人は、地元の太鼓チームの主将でした。なんととっても嬉しかったのは、大浴場と露天風呂でした。ぜいたくにも、毎日、朝と夜の2回、その大きなお風呂に入りました。練習はなかなかハードで、体も疲れましたが、熱いお湯に入ると疲れがふっとぶようでした。仲間と一緒に風呂に入って、その日覚えたリズムを思い出して振り返るのが、すごく楽しかったです。やはり温泉は日本の文化にとって、かせないものだと思われ、メンバー全員が感じました。

ワークショップは毎日10時から4時までで、公民館で行われました。1日目の最初に、先生のアートさんに頼まれて、タスマニアの6人が2曲を演奏しました。私はカメラ係になってしまったのですが、タイコクラブが太鼓がなくて、ポリバケツをたたいていた時代しか知らない私だったので、みんなの演奏を見て、本当にびっくりしました。とにかく上手でした。毎日、新しいリズムやスタイルを教えてもらいました。日本で昔から伝わる三宅島の太鼓などのほかに、アフリカや韓国のリズムも勉強しました。とにかく毎日が必死で、夢にも太鼓が出てきました。4日目は、諏訪市にある諏訪太鼓の道場を見学しました。日本で組太鼓という演奏形式を開発した小口大八氏の話聞いた後で、氏の指導を受けて、諏訪太鼓の曲の一つ教えていただきました。

最終日にコンサートがあり、私達も手伝い、またコンサートの一曲を舞台上がって一緒にたたきました。照明を落とした満員のホールで舞台に立つのは最高でした。ワークショップで一生懸命覚えた曲を一緒にたたいて、本当に楽しかったです。私を含めて7人は貴重な体験をすることができたと思います。メンバーがオーストラリアに帰って、習ったことを他のメンバーに伝えるとタスマニアの和太鼓はもっともっとよくなるでしょう。これからの活動が楽しみです。僕も引き続き日本とオーストラリアの太鼓の交流に尽くしたいと思います。

増田進一（協会員）「ニュージーランドで釣って食べて」

私は釣りが好きで、自称「釣りキチ」。その前の年に1ヶ月コロマンデルに滞在していた北出さんが先生、しかし急に入院され、私が責任者になってしまった。むこうで釣り餌を買うのは大変。スーパーで餌のボックスは冷凍庫。10~20kgのイカやサバに似た魚の冷凍の塊。日本ではたいてい小さいオキアミ、イカにしても、イワシにしても、10cm程度。そんな大きいのをどうすればいいのかわからない。宮本由紀子さんに頼んで、小ぶりの箱入りの1kgく

らしいイカ、カツオの煮たもの、サーモンの煮たもの3種を入手。ホリディパークでのウナギ釣り(詳しくは会報前号参照) 餌を付けた石を水の中に沈めておく「つけ針漁」をしようと、サンダル履きで川に入った。餌を持って、石を探している間にも、その餌にウナギが食いついてくる。足の指を食いちぎられそうで怖かった。翌日のウナギ釣りは、午前中は釣れず、午後は5匹。大きいものはビール瓶大で、日本のものの3倍くらい。こんなものをどう料理するのか。3人がかりで料理するが、大変。出来たウナギ丼は、見た目は日本のウナギと同じだが、肉質が違う。宮本会長の年賀状に「ウナギ丼など、もう、ウナギは見たくない、食べたくない、とみんな思ったにちがいない」。ノースランドを周った後、コロマンデル半島で釣り。至る所に釣り場。オオアジ、サヨリなど、刺身や煮つけ、ムニエルにして食べた。ナマコを岩場で拾って料理したこともあった。宮本由紀子さんが釣りが上手でびっくり。宮本会長も釣りをされた。コロマンデルでは鯛を釣るのが目的だった。ロトルアの公園、卵を1パック買ってきて、温泉の湧出している所で卵を拾ってきた棒の先につけて釣り(?)していた。観光客が「何をしているのか?」「フィッシングだ」。

20日間の協会の旅行は、今まで経験していた旅行会社のきちんと決められたツアーとは全然違う、自分で料理しながらの、手づくりの旅。今後も協会の旅に行ける限り参加したい。

米井誠(オークランド在住)「キングフィッシュとの格闘」

コロマンデルに久しぶりに釣行に出かけました。空は快晴、海は青く、ここちよい風が吹いてコンディションは申し分なし。念願のキングフィッシュはかからない。西に傾き潮も干潮に近づいてきたのでそろそろ引き上げることにしました。私の身体を気遣って、渡辺さんが荷物を全部運んでくれると言うので、私はお言葉に甘えて渡辺さんが車に荷物を運んでいる間も、未練がましく釣り糸をたれておりました。「これで終わりだから、あと竿だけ持ってきてや。」と言って渡辺さんが最後の荷物を持って岩場を登っていったので、あーあ今日はだめだったかと思いながらリールを巻き始めると、私同様すっかりくたびれてしまったサヨリがウキにひっぱられるようなかたちで水面をフラフラと漂いながら近づいてきました。すると、サヨリの後ろの水面下に何か大きなものがスーっとついてきているではありませんか。「も、もしや!」と思ってリールを巻く手を止めて目を凝らしたその時です。突如、グッバーッと巨大なヒラマサが水面に体半分を躍らせてエサのサヨリを一呑みにしてしまいました。「うおーッ、掛けたアーッ!!」「わひゃひゃほっ! あちゃちゃちゃ!」すっかり我を忘れて訳のわからない奇声を発して竿を立てた途端、私は、突然すごい力でひっぱられ危うく海に落ちそうになりました。私はヨロヨロしながらも体勢を立て直し、こみ上げてくる(たぶん釣り人にしかわからないであろう)快感を味わっておりました。ドラッグを締めてあるにもかかわらずリールはうなりをあげ、引っ張り込まれないように踏ん張るのがやっとなという、まさにヒラマサ釣りの醍醐味を満喫しながら、私はこの巨大ヒラマサとの格闘を開始したのでした。今まで何度も糸を切れ苦渋をなめさせられてきた磯からのヒラマサ釣り。今回はPEラインに50号のハリス、まず切られることはないだろうと強気で勝負に出ることにしました。ところが、針掛りしたヒラマサは、最初猛スピードで沖に走っていたのに、ドラッグを締め上げて走るのをストップさせようとしたら、今度はどんどん左の方に向かって行くではありませんか。「い、いかん!」左の磯には相変わらず2人の釣り人がいて、糸がからまってしまったら大変だし、それよりもなによりもこの場所で、こんなにたやすくヒラマサが掛ることを知られなかったもので、なんとか引き戻そうと、ドラッグを目いっぱい締め渾身の力をこめて踏ん張りました。竿が中ほどまでギリギリとしなり糸が海風をうけてピィーンと鳴り、まさに力と力の勝負、綱引き状態に陥ったとき、さすがのヒラマサもいやになったのか、向きを変えて右に向かって走り出しました。私はここぞとばかり竿を立てリールを巻き、なんとかこのヒラマサを足場の良い取り込みやすい磯のほうへ誘導しようと試みました。その時、私はとんでもないことに気がついたのです。『しまった! ギャフが、なかったんだア! この釣行にはギャフを持たずにタモだけ持って来ていたというわけなのです。『そうだ!、タモを持ってきてもらわなければ...』と、大

05/8/25 第13号

声で渡辺さんと呼んだのですが、波音で聞こえないのか一向に姿を見せる様子はありません。『あーしょうがない、私不来ないのでそのうち業を煮やして呼びに来るだろう』と思い、私はひとり巨大ヒラマサとの格闘を続けておりました。ヒラマサは一向に疲れる様子もなくグイグイと竿をしめ込んでゆきます。私が向きを変えさせようと竿を少しねかせた瞬間、巨大ヒラマサは突然魚体を反転させものすごい勢いで反対方向に走りました。《ブチッ》、なんと、その時起こってはならないことが起こってしまったのです。切れるはずのないPEラインが、ものの見事にぶっ切られてしまったのです。「ああああ！ウソやろーッ！」「なんでやねーんッ！」私は、しばし呆然とその場にたたずんでおりました。苦節20数年、今度こそ釣り上げられるかと思った磯キング（磯で釣れるキングフィッシュなので）、またしても取り逃がしてしまうとは...まさに晴天の下の悪夢、一番違いの宝くじ、ひと足違いで乗り遅れた最終電車、あーなんと悔しい限りでありました。原因は以前、釣り名人のテツツアンにももらったPEラインをそのまま使っていたので、それが結構くたびれていたためと思うのですが...だけど本当は、釣りの神様が、私がまた心臓マヒを起こすのを心配してギャフを隠したり、糸を切ったりしたのだと思うのであります。それはきっと神の偉大な慈悲だったのでしょうか。（編集の都合上一部カットしました）

畠山義啓（協会理事）「メルボルンの楽しいワイナリー」

シャルドネ、ピノ・ノワール、カベルネ・ソーヴィニヨンという名前を聞かれて、ブドウの品種だと思われた方は、ワイン通ですね。

わたくしは、95年に2週間ほどオーストラリアのワイナリーでホームステイしたことがあり、そこでの経験からワインについて少し詳しくなったのと、01年にそのワイナリーでワインの製造過程をビデオ撮影、編集し一枚のビデオCDを作成しました。今年の協会の総会では、会員の皆様とワインを飲みながら夕食を一緒にさせていただいたときに、その映像を皆様に見ていただいた次第です。

この紙面では、その内容について伝えきれませんので、ここではワインのお話をして今後協会の懇親会での話のネタにさせていただければと思います。

もも栗3年、柿8年といいますが、ブドウにとって、木の年数は大切なようです。といいますが、年々根を伸ばし、10メートルほどに達するそうです。根が長いということは、地中から様々な成分を吸収して実を作ります。ですから、7年までの若い木から取れたブドウで作られたワインとそれ以上の古い木から作られるワインとでは格が違うようです。ファーストワイン、セカンドワインと呼ばれているのはこのことですね。

ブドウの品種が同じでも、土壌、気候、作り手などの要素でワインの出来が違ってくることは容易に想像できますが、実際のワインの違いを語るには、努力と資産（大げさかな？）が必要になってくるのが現実です。

総会当日は、会員であられます四日市の橋本善光さんのお世話で、おいしくワインをいただきました。息子さんがソムリエの資格をお持ちとのことで、四日市周辺の方はお気軽にご相談ください。住所&TEL:「蔵屋」四日市市市下の宮町 TEL:0593-64-7008 なお、津近辺の方には、わたくしがいつもお世話になっているお店を紹介します。レストラン「パーダーポルン」三重県津市一身田平野 TEL:059-231-2055:オーナーが日本ソムリエ協会の理事を務めてみえます。なので、お休みが不定期ですので要予約です。「リカーショップ ウチヤマ」津市柳山津興 TEL:059-226-3312:ここの若大将がワインアドバイザーですので、気軽に相談できます。

Chardonnay



PinotNoir



Stonier Reserve Pinot Noir
(Mornington Peninsula Vic.)



J R P S ニュージーランド親善旅行報告

J R P S 会報記事 2005 年 J R P S Mie N Z 親善交流旅行 (報告) 宮本忠

主催：J R P S 三重支部

後援：三重オーストラリア・ニュージーランド協会

団長：河原洋紀 (J R P S 三重支部長)

協会同行者：増田事業担当、立石会員、宮本会長夫妻

参加人数：三重支部 19 名 協会 4 名 合計 23 名

旅行地：ニュージーランド北島オークランド～127km ハミルトン～109km ロトルア

旅の期間：2005 年 6 月 6 日 (月) から 11 日 (土)

利用国際空港：中部国際空港 (セントレア) - オークランド国際空港

利用航空機：ニュージーランド航空

航空券発券：ブルーパシフィック (ニュージーランドエアホリデイズ) 名古屋支店

宿泊：テルメリゾート、ロトルア (三泊)

メルキュール、オークランド (一泊)



〔 旅程日誌 〕

6 日 (月) 津から高速船 14:00 出航、セントレア N Z 94 18:30 全員元気に出発。

7 日 (火) オークランド国際空港 08:20 到着。空港から貸し切りバス。牧場、牧場、羊、牛。ワイカト地域は、乳製品、近郊農産物、水力発電の一大産地。マオリの地名目立つ。ハミルトン中心街を通過して 昼食は、サラブレッド、英国色濃いケンブリッジで各自。山岳地帯に入るとすぐにロトルア。15 時温泉モテル テルメリゾート着。休憩後インフォメーションセンター訪問。足湯と散歩。川原支部長、宮本夫妻は名誉首長アンディさん、ラドルフさんと明日の交流会の打ち合わせ。夕食バイキング。会員の山口さん一家ナピアから合流。



ロトルア・パスターミナル 待合所の足湯

8 日 (水) 午前 8 時 テルメリゾート発。ハムラナ・スプリングスガーデン、ロトルア湖の源泉や縦の木の森林浴さわやか。10 時 15 分 ファームショー；羊とドッグと川原さん乳絞り。正午 現地視覚障害者 17 名および N Z 盲人協会マネージャーのアリソンさんと昼食および交流、全員英語でプレゼント。合唱でエール交換、木村さんのソプラノ響く。地元新聞記者の取材有り。(シニアセンターにて)



おみやげのプレゼント渡し

9 日 (木) 午前 9 時テルメリゾート発 9:30 着 ワイオタブ (Wai-O-tapu Thermal Wonderland) 地熱景観 レディノックス・ガイザー (Lady Knox Geyser 10:15 の人工吹き上げは不評判) シャンプーンプールやマッドプール、増田さん命名の湯の花千枚田は不思議な世界。昼食 ロトルア湖畔でおにぎりご飯などテルメの若旦那がお湯とともに運んでくれた。小川さんの即席味噌汁をいただきながら、鱒釣りを見る。小集会で今後の旅のあり方議論。14 時ワイマング渓谷 (Waimangu Volcanic Valley) フライバン湖は 80 度の湯気の上がる湖。ミルクブルーの色が美しい火口湖であるインフェルノ・クレーター。16 時ポリネシアンスパ：四つの温泉プールを電車ごっこで男女混浴。買い物班はショッピングを楽しむ。18 時過ぎ 夕食は高値とボリュウムの洋食。ショッピングと南十字星探索。



温泉が突然噴き出した (ロトルア)

10 日 (金) 午前 8 時テルメリゾート発 ニュージーランド最大の都市オークランドへ。運転手トムさんの発案でパノラマ景観イーデン山をバスで登る。港、ヨット島々、火山河口そして高層ビル郡と住宅地の広がり。13:30 オークランド博物館でマオリダンス

ショーや触れる N Z の生物や貝殻を体験。昼食は三々五々館内軽食。15:30 ビクトリアマーケット ミュージックショップでの多賀さんの一時間なんなんとする CD 体験ショッピングは見事。17 時メルキュールホテルチェックイン。夕食はまたまた洋食。増田さんの音頭ですばらしかった旅行に乾杯。19 時 N Z RPS カミル・ガイさん、通訳のユキエさんと情報および資料交換、河原支部長、小川副支部長、宮本忠、由紀子で対応。会合出席者以外は、夜の市街探訪。会合組も仕事終了後街に飛び出す。

11 日 (土) 午前 6 時 ホテル発 オークランド国際空港 N Z 93 08:45 発は、濃霧のため 2 時間足止め。中部国際空港 17:15 (帰国予定も 2 時間遅れる。) 心配無用。最終船に、全員、間に合い津市なぎさ町に無事帰還。出発前、現地から、今冬は異常に寒く雨天が続いているとの情報ばかり。私たちの 5 日間は晴天一色。帰国直後、南島のクライストチャーチは、気温零下、ヒョウが降っているとの連絡あり。神仏のご加護にも感謝感謝。

以下は、旅行直後、参加者から届いたメールの一部です。

RP 三重 小川正次「ニュージーランドの旅を終えて」

この度6月6日から11日までニュージーランドのツアーに連れて行って頂きました。私は全盲で人のお世話を頂かねば行動不可能なものであり、J R P S (日本網膜色素変性症協会) 三重支部 (RP 三重) のメンバーです。三重支部は、今年度、結成10周年を迎えたのを節目に、ニュージーランド旅行を企画したという訳です。

そこで、このプランに賛同して頂いたのが我々の会員でもある宮本先生でした。先生は三重オーストラリア・ニュージーランド協会の会長をされている事を知っていたために話を投げかけ、それを受け取って頂けたと言うことでした。ニュージーランド旅行に際しましては、宮本先生を始め、由紀子奥様と増田さんと立石君に一方ならぬお世話をかけてきました。天候にも恵まれ、日本とは違った空気の味わいを十分に感じ取って帰宅しました。本当に素晴らしい土地だなあ、と行く先々で心に焼き付けられるものがありました。現地では、私は増田さんと3泊同室で、増田さんが私の主婦を下さったんですよ。増田さんは、腰痛にむち打ちながら、全てお任せの主婦やってくれたのです。とても感謝致しております。その時初めてニュージーランド協会の成り立ちや行事内容を聞かせて頂き、私共の会にご協力を頂いた事を勿体なく思わせてもらおうと共に、今回の好意を深く感謝の念に絶えない次第です。J R P S から参加した全員が声を大にして思い出を喜びっております。協会の皆様本当に私達のためにご協力頂き有り難うございました。

森田ミヨ子「思いで有り難う」

こんばんは、とても楽しかった旅に酔いしれて居る森田ミヨ子です。あれほど心配してどうなることかと思っていたことが信じられないくらいです。お世話頂いた皆様のおかげでほんとうに夢のような楽しい毎日でした。今まで、三重県と生まれ故郷の島根県を行き来しているだけで日本ですら殆ど行ったことのなかったわたしが日本の裏側のニュージーランドに連れていってもらえるなんて！ほんとうにおもいきって出掛けさせていただいてよかったです。何にもかえられない今からの私の人生にいつまでも残る輝く嬉しい思い出です。自然のすごさをとても感じる事ができて、行かないと分からない満足にふれる事ができてとてもよかったです。それにプラス皆様のパワーで20メートルも突然吹き上げた、あの間欠泉の奇跡の瞬間は最高でした。本当にどこに言ってもすべて素晴らしく大感動の連続でした。これからもわたしはいろんな出逢いを大切に宝物を沢山集めていきたい！いこう！そのために足腰きたえて元気にどこまでもみなさんのいかれるところにくっつけてもらって、楽しい人生を続けていきたいと思いました。これからも沢山のチャンスにおそれずに挑戦していきたいと思っています。宜しく願いいたします。また連れてってください！誘ってくださいね。あざやかに残る思い出にスキップしたくなるほど楽しいわたしなのです。

岡山留美子「こんばんわ」

先日は、ニュージーランド旅行で大変お世話になりました。森田ミヨ子叔母ちゃんと一緒に参加させていただいた岡山留美子です。旅行では宮本先生を始め、由紀子さんや立石さんにも大変お世話になりました。

旅行の最終日には、先的高速船で帰らせていただきありがとうございました。すごく楽しい旅行をさせていただいたのにきちんと御礼も言わずにすみませんでした。日本についてから日曜日は叔母ちゃんのお家で過ごさせてもらって、月曜日に島根に帰ってきました。家族が私が楽しんできた話を聞いて「本当にいい経験になったね。」と喜んでくれ、皆さんにも感謝していました。私はニュージーランドの自然や文化に触れられたことはもちろん、何にでも取り組もうとする前向きさ、集団行動でのマナーなど人として成長できたと思います。旅行の責任者の先生達は私たちが楽しく安全に過ごせるよう、たくさんのご苦労があったと思います。先生方のお陰でただの観光ツアーでは、経験できないことをたくさん経験できましたし、ありのままの「ニュージーランド」

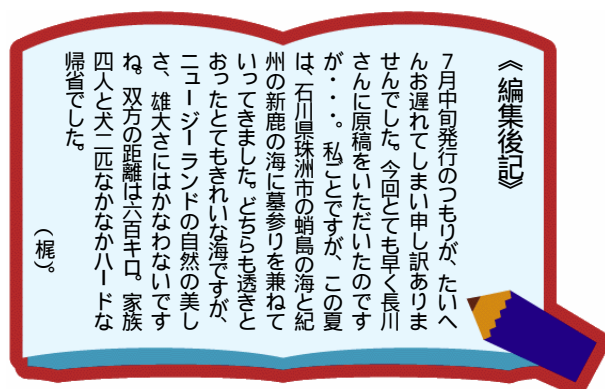
を感じる事が出来ました。こんな貴重な体験が出来たことが本当にありがたいです。島根から簡単に三重に行くことは出来ませんが、これからももしも機会があったら是非三重へ遊びに行き皆さんに会いに行きたいです！これからもお仕事がお忙しいと想いますがお体に気をつけて頑張ってください。

山口さとみ「ロトルア”HOT”紀行(通信)」

4月10日、セントレアを出発後2カ月が経とうとしていた6月7日、日本で散々お世話になった宮本先生ご夫妻はじめ協会の方々にお会いしたい一心で、運転手(夫)と子どもとともに、買ったばかりの車にはかなりの負担でしたが、ノンストップでナピアからロトルアに向かいました。(片道3時間)4月17日~21日まで泊めて頂いた懐かしの温泉モテル・TERUME RESORTの経営者の中島様ご家族とも再会でき、”ホッと”一息。特に大河(6)はお孫さんのマイキー君と又遊べて大喜びでした。宮本先生はいつもの柔らかい語りで歓迎して下さい、又々”ホッと”致しました。協会の夕食会では夫は久しぶりに思い切り日本語で会話が出来て本当に”ホッと”したようでワインもビールもついつい・・・。夜は満天の星空に南十字星を探しながら露天風呂を楽しみ、心も体もHOT。露天風呂で、2歳5か月の娘・えがお・が、「丸い所は熱いであかんよ。わかった?おかあちゃん!」と言ったのには驚きました。50日前、初めてこの風呂に入る時、教えた事をちゃんと覚えていて注意までしてくれたのです。アップレ!この2歳は末は博士か かな?翌朝8時出発は無理かなと思いつつも、日本からの皆様と一緒したくて子供達を起こしたら、いつもは愚図る大河が、「皆と羊ショーに行くよ」と言ったら「ハイッ!」と言って、目をぱちっと開けたのには又々びっくり!朝のハムナラスプリングガーデン散策は今回の旅で一番素晴らしい思い出となりました。水底の一粒一粒の白い砂まで見て取れる清い流れに感動し、黒鳥の優雅な舞に心奪われ、夏には大勢のアジア人が瞑想に訪れる、と運転手さんが教えてくれた大木が等間隔に立ち並ぶ静寂の森。そんな中、度会町の養護学校の辻本先生がポツポツとご自分の目の病気の事を話し始められました。「目が良く見えていた時にはわからなかったものが見えるようになってきました。」と、優しく微笑まれたお顔がとても印象的でした。そんな風におっしゃれるまでにどれ程の時が必要だったのか、思わず胸が熱くなりました。

私は非常に恵まれた環境で何不自由無く暮らせる日本を、自分の欲求を満たすために飛び出してニュージーランドに来ました。しかし、現実には様々な予期せぬ出来事や出る杭を打とうとする日本人の存在など心がほっとする暇も無い2か月でした。しかし、川原会長さんの底抜けの明るさや辻本先生の穏やかな優しさに触れそして、お一人お一人お話をさせて頂く度にあったか~い気持ちにさせて頂きました。本当に心から感謝申し上げます。皆様から熱いエネルギーを頂け、再び私は自分のすべき事に向かって全力で駆け抜ける勇気とパワーを頂きました。

私は、私の家族を全力で守りながら、日本(特に三重県)とニュージーランドの人々を繋ぐ”虹の架け橋”になる夢を全うします。皆様もお元気で遅く、そしてしなやかに生きていかれますことをお祈り致しております。本当にありがとうございました。



<事務連絡>
会費未納の方は納入をおねがいします。
百五銀行津市役所出張所
ミエゴウエヌゼットキョウカイ 82920
新たにEメールでの配信をご希望の方
& fax0593 - 68 - 2112 宮本まで。

発行 三重オーストラリア・ニュージーランド協会
発行責任者 宮本忠 Tel/Fax 0593(68) 2112
〒510-0226 鈴鹿市岸岡町 2626-95
HP : http://www.ztv.ne.jp/yosshi/
Eメール : ty1005@mecha.ne.jp
この会報にある文章・写真の無断掲載はご遠慮下さい。